

令和4年 5月26日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 森田 洋一 様

議会報告会 2班(教育福祉委員会)

班長 小田桐 仙
近藤 美保
岡 明彦
石原 修治
菅野 浩考
森田 洋一
中川 弘

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 令和4年5月15日(日)午後2時～午後4時
- 2 場所 おおたかの森センター ホール
- 3 欠席議員
なし
- 4 来場者数
市民来場者24人、議員・職員4人(合計28人)
- 5 報告内容
2 テーマ(資料配布とスクリーンでの説明)
 - ① おおたかの森周辺の街づくりについて
 - ② 20万都市、あなたはどんな街を望みますか
「20年後の流山市」

6 意見交換

各テーブル数名に分かれて、市政全般に対して、発表テーマを参考に意見を出し合う形で開催。

- 防災や安全については、引き続き重要課題であり、特に震災に対する備えは、ソフト面とハード面双方優先順位が高い。
- 介護現場、学生、高齢者、子ども、いろいろな立場な人がいて多様性を認め合うことが、まちの発展と継続には不可欠である。
- マーケティングの視点で住民誘致はよい。大切なのは、引っ越してきた方に満足感をもつ、永住のきっかけ作りである。そのためには教育、自然環境、行政への提言などコンテンツ、内容の充実が必要。
- 観光資料を紙媒体と同時に、SNS で発信して、より幅広い層に興味をもってもらえる仕掛け作りが大切。
- 学校のICT推進については、費用対効果の検証、どうしたらタブレットに慣れ親しむか、教師の負荷を減らし、生徒に向き合う時間をいかにして増やすか、といった課題解決につなげていくとよい。
- 休み時間には、外で誰もが遊べる、楽しい学校作りをしてほしい。
- 24時間体制で子育ての悩みを言えるとよい。その時に言わないと的確に伝えられない事例も多いのではないかと。

7 参加者から議会への要望

○流山市は、小中学校が新設され増えているので、高校も増やしてほしい。

○おおたかの森地域に住む子どもたちがいろいろな体験ができる場を増やしてほしい。

○地域格差を是正して欲しい。市立病院が欲しい。保健所を誘致して欲しい。

○「母になるなら流山市」を掲げて30～40代の子育て世代が増えている中で、プラスの発想は上手だが、ガバナンスやエビデンスなど公正な判断・運営がなされるよう根拠・裏付けなど明確に発信して欲しい。

- 物流施設が出来たことによる交通問題(送迎バス含む)、地域格差、既存小学校と新規小学校との環境や学力格差の問題。
- 観光資料等を紙媒体と同時に、SNS 等を活用しての情報発信や周知に努めてほしい。
- 多様性を尊重してお互いが理解しあえるようになってほしい。

8 所感

【森田 洋一議員】

- 今回の場合、2 班では作業の負荷が比較的分散され、特定の人だけに負担が集中することはなかったと感じた。
- それでも、資料の作成と修正、事前の打合せ、準備作業、報告書の作成と提出と、当日の拘束時間以外にかなりの時間を各自費やしていることから、極力、不要な作業をなくす見直しが必要と思う。
- また、公務といえども、感染症リスクへの考え方、他の用事や活動との優先順位のつけ方、モチベーション維持などについては、人によって感じ方、とらえ方が異なるし、温度差も著しい。この制度の導入当時と時代背景や社会情勢が変化し、そもそもの制度趣旨自体を理解しながら条例制定に関わった人は少なくなっている。今後はあまり強要するのではないような制度の見直しや変更を視野に入れる必要があると感じる。
- 正直、日程の設定が、直前になって最悪のタイミングであると痛切に感じた。いろいろな予定が重なる時期で、きっと、なんでこのタイミングなのか、調整がきつすぎという声が出てきて自然と考えるし、私自身そう考える。
- こうしたことをふまえて、負担感が少ない、無理がないといった方向に改善が必要であると思う。元々、現状で全く変わらない方法ならば、私は廃止派に近い考え方である。しかし、まだ改善の余地があるならば、試行することにも賛成である。ただし、年に1回、極力、手間がかからない、日程的に無理がないことが最低条件と思う。
- 全体として、2 班は、しっかり役割分担して、新しいことにも挑戦、肯定感が強い感じで個人的には、よかったと思います。

【岡 明彦議員】

今回の報告会はワークショップの形式で行われましたが、テーマへの意見が参加者の方からストレートにいただける形になっていたと感じました。私が担当させていただいたグループは私を含めお子さんを持つお父さん達と子ども達でしたが、皆さんがそれぞれに意見を述べ、お互いに意見を交わしながら、意見を集約し発表を含め自主的に行う事が出来ました。全体的にも新しい取り組みを実行出来たと感じています。

【石原 修治議員】

今回の議会報告会はワークショップ形式で行い、日々感じている問題点や課題等を全員の方から積極的に発言していただける形となりました。今後、本日の市民の方々からのご意見を委員会の中で協議・検討し、改善点を見いだせればと思います。

更に多くの市民の方々に参加していただける議会報告会のあり方を、今後も模索していきたいと感じました。

【中川 弘議員】

ワークショップ形式としたことで発言の公平性を担保できた点は良かったと思うが、班での取りまとめのやり方の難しさ(取り纏め方によってはどのような意見や要望があったのかその全体をつかむことが出来ない等)があり、今後も試行錯誤する必要性を感じた。

【小田桐 仙議員】

参加された市民から様々なご意見を具体的、かつ直接的に交換できた事は良かった。また、市民の自由な意見や所感について、否定や慎重さを求める意見はあったものの、それらの意見も肯定的に捉え直し、発展的に意見交換できた事は、高い市民力を示すものと捉えて良いと思います。

【菅野 浩考議員】

多くの市民にお越し戴き感謝でいっぱいです。貴重なお時間を賜りありがとうございました。今回は新しい形式で取り組んだ初の試みの議会

報告会でした。

私は発表者として、20年後の流山市について、総合計画ができる過程など、市民との意見交換を重ね総合計画が形になっていることを議会報告・説明し、その後、グループ毎に、流山市の街づくりについてワークショップをしました。市民と一緒に作った議会報告会になりました。

叱咤激励もあり、活発な意見交換が出来ました。政治離れと言われていた昨今ではありますが、流山市民は街づくりについて、真剣に考え、大切なご家族が暮らす流山市に、大変関心があることに、流山市の将来は明るいと確信した議会報告会となりました。

【近藤 美保議員】

今回の議会報告会の形式は、前回までの議会報告会ご参加された市民からの

- ・もっとポジティブな発言の場にしてほしい
- ・こんな糾弾の場所には二度と参加したくない

というご意見を受けて、個別の陳情については、終了後対応することにして、未来志向のテーマについてワークショップという形式しようと、チャレンジすることになりました。

結果、小中学生をはじめとして幅広い年齢の方にご参加頂くことが出来ました。

「テーマが未来のことで面白そうだから」とお子さんを連れて下さった市民の方々の行動に気づかされたのは、市民が政治が遠いと敬遠しているのではなく、また現時点での完璧を求めるわけでもなく、市民が届けた声に呼応して変えていこうという私たちの姿勢に期待して、一緒に参画して下さろうしているということでした。

ワークショップ運営には様々な課題もありましたが、グループ分け後の各テーブルに着いた議員は質問にも応じつつ、市政の深い部分を共有したり、市民と議員と一緒に未来を考える様子は、多様な民意の反映という役割を担っている議会のありたい姿を体現しようとするものだったと感じます。

中盤、市民の方々から問題提起があり白熱した場面もございました

が、是々非々の議論も出来、充実しました。今後も糾弾の場とするのではなく市民と議員が一緒に知恵を出し考える場として実現出来たらと思います。最後に、誰かの議員に負荷が集中することなく、役目を分担して会を作り上げられたことも良かったと思います。